

# ＝ 普 及 情 報 ＝

No. 24

平成29年11月13日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題	斐川ぶどう共販60周年を節目に「活性化プラン」を策定！ ～10年後に 共販5千5百万円を目指して～
-----	------------------------------------------------------

(ダイジェスト)

11月7日、斐川町ぶどう生産組合（矢野組合長、組合員21名）の共販60周年記念生産者大会が開催され、10年後を見据えた「斐川町ぶどう生産組合活性化プラン」が発表されました。今後、この活性化プランの目標を生産者や関係機関が共有し、未来へと継承される「斐川ぶどう」に向けて、みんなが一丸となって取り組むことを確認しました。

斐川町におけるぶどう栽培は、生産者の高齢化とハウスの老朽化による生産者数・栽培面積・販売量・販売額が減少していることから、共販60周年を契機に本年6月から将来の斐川ぶどうを担う青年部（嶋田部長、部員4名）が中心となり、生産組合の理事会等で検討されてきました。

大会では、プランの発表を青年部2名（両名とも認定就農者）が行い、「ハウス補修事業による面積維持、高齢化対策としての作業受託組織の設立、リース団地の整備等による将来の担い手づくり（ぶどう専業農家）」を目標に掲げ販売額を5千5百万円に伸ばす計画となっています。



青年部2名(認定就農者)による活性化プラン発表

そして、本年度中には組合員アンケートの実施、座談会等での事業説明、また、ハウス補修事業の導入等について青年部を中心とする検討会が予定され、活性化プラン達成のための確実な一歩が踏み出されます。

その後、大阪中央青果株式会社 中川代表取締役副社長から「消費者から求められるぶどうづくり」と題して基調講演が行われ、斐川ぶどうの産地づくりの歴史や島根ぶどう「デラウェア」のブランド継承、販売額目標を10年後に1億円突破するよう青年部に激励を頂きました。

当農業普及部としても、斐川町ぶどう生産組合活性化プランの目標達成を支援するため、既存品種の単収向上と秀品率向上、優良系統デラウェアの改植推進と早期成園化、また、県オリジナル品種「S3012」の導入支援について、農業技術センターと連携した普及活動を行っていきます。